

CISPR シドニー会議 Plenary Assembly (2007.9.21)

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
1 開会			20ヶ国 69名参加 Prof. Nano, Mr. Hall, Mr. Tomita に黙祷
2 議事次第の承認	CISPR/1145A/DA		
3 前回上海会議 (2004)の議事録の 確認	CISPR/1127/RM	特に問題なし	
4 議事録から派生し た審議事項		特に問題なし	
5 CISPR 議長 の報告	この3年間に発行されたPublication類の報告など	報告を聞く	12年間 Chair を行ってきた Kerry が今回、任期満了で辞任。各国及び各 SC に謝辞。長年 SC/A secretary を務めてきた Schaefer に感謝した。 CISPR を紹介した CISPR guide は IEC web site の EMC zone に掲載済みであると報告。また TC77 との協同作業によって得られた規格は IEC61000 series に含まれていると説明。
6 CISPR 議長等 の選挙 a) CISPR 議長 b) CISPR 副議長	CISPR/1139/INF: Mr Heirmanが候補 CISPR/1142/INF:Mr. Wrightが候補	現在の議長 Mr. Kerry は任期満了(6+3年)、副議長 Mr. Despres は退任(6年)のため、後任者として提案されている候補者を支持する	Chairman として Heirman 承認 Vice Chairman として Wright を承認 Chair は、これまでの Vice Chair であった Mr. Despres に謝辞を述べた。
7 SC 委員長の 指名 a) CISPR/A(新任) b) CISPR/B(新任) c) CISPR/D(再任) d) CISPR/H(新任) e) CISPR/I(再任)	CISPR/1143/INF: Mr. Stecherが候補 CISPR/1140/INF: Dr. Sisolefskyが候補 CISPR/1135/INF: Mr. Andersenを再任3年 CISPR/1138/INF: Mr. Goriniが候補 CISPR/1136/INF: Mr. Wrightを再任3年	SC 委員長の任期は6+3年であるが、下記の候補者が上がっている Mr. Heirman の後任、 Mr. Kohling の後任、 Mr. Després の後任、 我が国は全員を支持する。	<u>SC/A, B, D, H, I の各 Chairmen として、下記の候補者を承認した。</u> <u>新任(expire in 2013) :</u> <u>SC-A Mr. Manfred Stecher (DE)</u> <u>SC-B Dr. Bernd Sisolefsky (DE)</u> <u>SC-H Mr. Beniamino Gorini (IT)</u> <u>再任(expire in 2010) :</u> <u>SC-D Mr. Poul Andersen(US)</u> <u>SC-I Mr. Martin Wright(UK)</u>
8 「1906年賞」 の受賞者	過去3年間の受賞者の報告 <u>AC/32/2007</u>	報告を聞く	3年間の受賞者名を披露。今年度の CISPR 推薦受賞者は5人
9 Guide 108 等の 水平規格について	AC/30/2006 : IEC規格間の協調に関するGuide 108の修正に関する報告。EMCに関してはGuide 107に基づくことをScopeに明記した。	報告を聞く	horizontal standards の取り扱いを記載した IEC Guide 108 が紹介された。CISPR では、SC-A/H の規格が horizontal であるが、こ

			れらは Guide 107 の対象であるとの説明がなされた。
10 構成機関の除名	CISPR構成メンバーとなっている国際機関のうち、最近、活動報告等が無い国際機関を除名する CISPR/S(Sydney/Sec)11	URSI, Eurelectric, ICAO, UIC and UIE などが除名対象機関である。我が国としては特に異議なし。	Chair は、活動報告がない国際機関に CISPR メンバー継続の意志を確認してきたが、下記の機関から積極的な意思表示が無かったので、構成メンバーから外す旨の提案があり、了承された。 Eurelectric, UIC, UIE, UITP
11 他機関との連携 11.1 不活発な連携 11.2 ECMA	CISPR/S/320/INF Ecma/TC20からCISPRとのliaisonの申込があった。 http://www.ecma-international.org/memento/TC20.htm ----- Before 1994 it was known as ECMA - European Computer Manufacturers Association Now, “Ecma International” is an industry association founded in 1961, dedicated to the standardization of information and communication systems.	これまで、CISPR と Ecma は独立に規格を審議していたが、昨今では、独立の作業が困難であるため、Category A liaison の申し入れがあった。これに関する CISPR の対応案は総会で提案されるが、不詳。我が国としては Ecma を EBU などと同様に構成機関として扱うことに賛成。ただし、CISPR は NC を基本とするため、SC-I に直接参加することに反対する。 Category A liaison: IEC Directive 1.17.2.1- 対象機関を通常の NC と同様に扱う。Such organizations are sent copies of all relevant documentation and are invited to meetings. They may nominate experts to participate in a WG/PT	Chair は、これまで連携メンバーとして扱ってきた URSI, ICAO からの積極的な連携維持の表明がないため、取り消すことを提案し、了承された。 我が国は Ecma のメンバーが既に SC/I に入っており、各国の国内委にも参加していることを述べて、Ecma の CISPR 参加に反対した。 しかしながら、ETSI などの工業会系の国際組織が既に CISPR に参加していることもあって、他国の賛成は得られなかった。このため、Ecma は Category A の liaison member として CISPR 構成機関に加わることになった。
12 試験方法の多重化	CISPR/1144/INF 産業界はalternative test methodsの導入を望んでいるが、これはISO/IEC Directiveに反しており、reference methodを規定する必要がある。このため、このDirectiveの6.3.5.4項を以下のように修正する	multimedia に関する 2 規格が、identical ではないが同程度の uncertainty になる複数の試験法を導入することを検討している。また、reference method を規定するこ	Chair は、SC-I が複数の試験法を同等に採用することを検討しているため、IEC Directive に抵触する恐れがあり、このため、IEC Directive の修正を提案した、旨を説明した。

	<p>ことを提案する。 If, for any reason, more than one test method is to be standardized, either the referee (often called “reference”) method shall be identified in the document or the intended (equal) validity shall be stated.”</p>	<p>とが困難。このため、Directive の修正を提起したもの。 我が国は以下の理由で提案に反対する： (1) 一般に試験法が複数有る場合、被測定物理量が異なる場合が多い。したがって、比較することは困難。 (2) また、CISPR limit は、放射波（漏えい波）の電界強度を基準にすべきである。したがって、limit に対応する電界強度が同等であり、かつ電界強度の uncertainty がどう等であるべき。</p>	<p>これに対して日本を含めて複数の国が反対文書を <u>steering comm</u> に提出した。寄与文書の紹介のあと、各代表が賛否の意見を述べた。 <u>賛成：スイス、英国、デンマーク、ベルギー、フィンランド、オランダ、ニュージーランド</u> <u>時期尚早：SC-A</u> <u>反対：日本、ドイツ（コメント付）、フランス、米国、オーストラリア、SC-I</u> このように両論が対立しているため、<u>Chair は、決着を付けるのは時期尚早と判断をして、SC にコメントを出してもらい、必要なら、来年の総会で再議論することになった。</u> <u>また、Chair は、各 SC は alternative methods の有無を調べ、secretary に報告するよう要請した。</u></p>
13 測定の不確かさ	Chair が、許容値適合判断の際に U _{CISPR} の導入を推奨する	U _{CISPR} の導入は、製品委員会の判断によって決まるものなので、我が国としては静観。	Swiss 文書：CISPR/A/748/INF Mr. Heirman が上記の文書を紹介して、不確かさの問題は全 IEC に共通の問題であるから、77 と CISPR が JTF を作り、 <u>measurement and compliance uncertainty に関する guide standard を作成すべきと主張した。基本的には CISPR 16-4-1 を修正するなどして、これを利用することになった。</u>
14 SC-Dの活動報告	最近の活動状況の報告		Anderson が、最近の審議状況を説明 (1) 車載アンテナに関して PAS を採用 (2) SC-A と共同で FFT 内蔵測定用受信機について検討を開始。
15 TC77との共同作業	最近の活動状況の報告		Heirman が、現在、3 課題について 77 と JTF を作り活動していることを報告
16 EMC zoneについて	IEC web にある EMC zone の紹介 http://www.iec.ch/zone/emc/		IEC 事務局の Dr. Balif が、IEC web site にある EMC zone について紹介した。例えば、

			EMC に関する IEC 規格のリストが掲載されている。これに関して Chair が、EMC zone を利用するよう要請した。
17 今後の会議 2008 Osaka, Japan 2009 未定, France, September 2010 Seattle, USA		2008 CISPR を 10/20-10/29 に WTC Osaka で開催することを紹介する。宣伝パンフレットを用意する。	<u>Heirman が総会を毎年開催することを提案し、異論なく了承された。</u> 2009 未定, France, 9/21~10/2 2010 Seattle, USA (注) 大阪会議で、総会用の部屋が必要
18 その他			(1) オーストラリアから、CISPR 規格の用語が統一されていないとの指摘文書が出された。これに関して Chair が、既に 5 人の委員から成る editorial comm. があり、利用しているが、正式な委員会とするために、その scope の作成をオーストラリアに依頼した。 (2) Chair は、steering comm に対して <u>IARU から、現在 SC-I/PLT が検討している PLT の許容値は、CIS 22 に比べて 18dB も高い値になっており、無線業務の保護を確保できない可能性があるとの懸念が出されていると紹介した。これに対して、Wright が、これに関する懸念文書を I/PLT に示したところ、そのような事実はない旨の回答であった、と紹介した。このため、steering comm の文書 CISPR/S(Sydney)22 (=s-green 22)を INF 文書として各国に配付することになった。</u>
19 閉会			